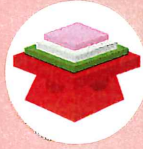


桃の節句

ゆ
の
さ
と



発行責任者 原修一
湯の里・黒松内
〒048-0101
北海道寿都郡黒松内町
字黒松内565-11
TEL 0136-77-2120
ホームページ
<https://www.tsukushien.or.jp/>



3月誕生者様



高島 海子 様



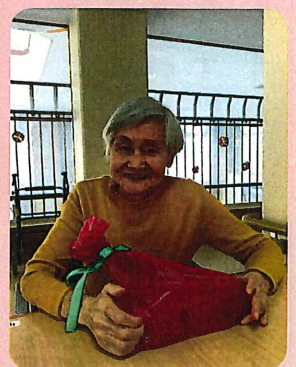
江口 惣重 様



武蔵 ヨシエ 様



伊藤 ヤエ子 様



丸山 和子 様



令和6年度 湯の里黒松内 事業計画・予算案

①基本方針

介護老人保健施設湯の里・黒松内は、老健施設の機能としてリハビリテーションの提供により自宅での生活を目指す施設です。利用される皆さん一人ひとりが心豊かで快適な生活を営めるように利用者さんの意向及び、人格を尊重し思い添えるよう専門職と一緒に考え必要な支援を進めてまいります。

また、今年度は介護報酬の改定があり2025年問題を見越した改定になります。しっかりと、国からの指示に則した対応を行い適正なサービスを提供できるよう努力して参ります。近年、物価の高騰を始めとする様々なコストが増加しており厳しい運営状況にあります。この状況を打破すべく社会資源としての使命をしっかりと確率し科学的介護（LIFE）の作成、ICT機器の活用による業務も効率化を事業の展開を図って参ります。

地域や家庭の結びつきを重視した運営を行い、市町村や保健、医療機関、その他の関係諸機関との密接な連携を図ります。さらに利用者及びご家族等からのいかなる相談にも親切・丁寧に対応し、皆様に信頼されるよう努力致します。

②重点目標

- 利用者様一人ひとりが、心豊かで快適な生活が送れるよう努めてまいります。
(信頼関係の構築、生活歴・習慣に配慮した支援、しっかりとしたリハビリテーションの提供)
- ご家族・利用者様に安心・安全なサービスを提供できるように努めてまいります。
(事故リスクの軽減、しっかりとした感染症対策、様々な災害対策)
- 施設全体が明るく利用者様が職員に気兼ねなく声を掛けるように努めてまいります。
(利用者は人生の先輩であるという意識の下、信頼関係の構築と基本的な接遇マナーを常に頭に入れて接する)
- 職員間の良好な関係の構築と心身の健康づくりに努めてまいります。
(職員間の良好な信頼関係、何事も気兼ねなく言える職場風土、健康診断での身体の健康確保)
- 職員一人ひとりが経営に対する意識を持ち組織機能の評価、運営、コストに対する意識を高めます。
(業務改善、ICT導入による業務の効率化、スキルアップに必要な教育、研修制度)
- 法人内(養護・特養・老健)の高齢者施設の一体感のある連携に努めてまいります。
(個々の利用者に適した施設利用、法人高齢者部門の関係の強化)
- 施設機能の提供と地域貢献に努めてまいります。
(実習生・職場体験の積極的な受け入れ、福祉授業での訪問、町内行事への参加など)

収入	【単位:千円】
科目	予算額
介護保険事業収入	417,449
経常経費寄付金収入	500
受取利息配当金	0
その他の収入	1,550
施設整備等補助金収入	0
設備資金借入金収入	
積立資産取崩収入	1,000
拠点区分間繰入金収入	2,000
収入合計(A)	422,499

支出	【単位:千円】
科目	予算額
人件費支出	262,300
事業費支出	77,204
事務費支出	34,660
利用者負担軽減額	1,900
支払利息	413
その他の支出	24,149
設備資金借入金元金償還支出	6,630
固定資産取得支出	5,000
ファイナンス・リース債務の返済支出	4,752
退職給与引当資産支出	6,400
拠点区分間繰入金支出	0
支出合計(B)	423,408

予備費(C)	0
当期資金収支差額 ①=(A)-(B)-(C)	△ 909

前期末支払資金残高②	19,376
当期末支払資金残高①+②	18,467

令和6年度は、介護や医療の制度改正の年となり、複雑化する社会課題に対応するために様々な変更点が示されているところです。ご家族の皆様には各種ご対応をお願いしますが、利用者さんや地域の皆様からの応援に添えるべく、サービスの質向上・地域貢献に向けてより一層取り組みを推進して参ります。

最後になりますが、地域の皆様が健康で安心して暮らせる地域社会の実現を目指し、社会資源としての使命をしっかりと確立し、歩んで参ります。今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。新年度のご挨拶とさせていただきます。

日頃より湯の里・黒松内の運営に際しまして多大なご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。前年度は、新型コロナウイルス感染症が5類になったことで日常生活での感染対策が緩和され短時間でありましたが対面での面会を再開致しました。久しぶりに逢えるご家族との面会にたくさんの笑顔を見ることができ心温まる気持ちでいっぱいでした。しかしながら、病院や高齢者施設での面会については大きな緩和になっっていない現状ではありますが、感染状況を把握してできるだけ制限の少ない生活に近づけて参ります。

総合施設長 挨拶
原 修一